

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
健康 生活	健康	○健康状態の維持・改善 ○生活習慣や生活リズムの形成	健康管理能力 必要な医療との連携	心身の健康維持・向上を図るために、休息をはじめ、ストレス対処法や感情コントロールなどを自分で管理する力を高めます。運動や遊びのなかで実感を伴いながら、健康的で主体的な活動ができる基盤をつくります。	・日常的に運動することで、ストレス発散の機会を増やし、感情コントロールを学ぶための方法を伝えていきます。学校生活や家庭でも汎化できるよう、スモールステップで継続的に支援し、主体的な心身の健康づくりにつなげていきます。
	生活	○基本的生活スキルの獲得 ○生活におけるマネジメントスキルの育成	自立生活の準備支援（買い物、交通機関利用、家事など） 自己管理能力の強化	自立して行動する力を育みます。放課後の活動に向かう準備や持ち物の管理、整理整頓などの生活習慣を身につけ、自信と自立心を育てます。自分で考えて行動できる環境を整備し、責任感や自己効力感を養います。	・水筒などの忘れ物を減らし、手洗いうがい・衣服の衛生管理の習慣を身につけられるよう支援します。事前に本人と指導員で決めた約束事やマナーを実践し、ポジティブなフィードバックを受けることで、自立した行動力を育みます。 ・放課後の楽しみや興味・関心の幅が広がるよう、KIZUNAで楽しい経験を積み重ねながら、通所の習慣を身につけていきます。余暇時間がより充実するよう、主体的な提案ができる場を設け、責任感と自己効力感を高めながら自己発揮できるよう支援します。
認知 行動	認知	○認知の特性についての理解と対応 ○対象や外部環境の適切な認知	学習支援 課題遂行能力の向上（課題に対する計画的な取り組み） 計画立案能力	運動や遊びを通して、一人ひとりに応じた認知能力を育みます。楽しい活動の中で好奇心を引き出しながら、概念形成（色、形、数の特徴など）、論理的思考力（パターン、順序、ルール理解）、問題解決力や柔軟な発想力を高めます。また、注意力や集中力の向上を支援し、新しい課題の挑戦により思考力を伸ばします。	・ルール遊び・運動を通して、意図や目的に沿って活動に取り組む力と注意・集中力を育みます。他児と順番に意見を交換することで、さまざまな考え方を知る機会を増やし、柔軟な思考や自己表現の幅を広げていきます。 ・ルールは事前に分かりやすく伝え、活動中にルールがわからない場合は、指導員が介入し理解を深める支援をします。迷っているときには、一緒に思い出す時間を設けたり、わからないことは質問することを促していきます。
	行動	○適切な行動の習得 ○行動障害への予防及び対応等	衝動コントロール ルール順守	・集団のなかで、状況に応じた適切な行動選択や感情・衝動をコントロールする力を高めます。役割意識と社会ルールを身につけていく基盤をつくります。 ・集団のなかで、状況に応じた適切な行動選択や感情・衝動をコントロールする力を高めます。役割意識と社会ルールを身につけていく基盤をつくります。	・タイマーや絵カードなど（視覚提示）と音楽やアラーム音など（聴覚的合図）を使って、活動の終了時間や切り替えのタイミングを出します。自然な形で切り替えなどのルールを学ぶ機会に触れていきます。 ・衝動的な逸脱行動が見られた際は、落ち着いた穏やかな声掛けをしながら、自分の意思で行動をコントロールできるよう促します。事前にルール説明や予測されるアクシデントを説明し、徐々に自立的で場に則した行動への意識が高まるように働きかけます。

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
運動 感覚	運動	○姿勢と運動・動作の基本的技能の向上 ○姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用	体力向上 調整力向上のための軽運動やスポーツ活動	運動経験を積みながら、体を動かす楽しさを感じたり自信を育みます。全身動作で、協調性やバランス感覚、体幹強化、手先の器用さを高め、持久力や集中力も伸ばします。段階的に高度な動きやチームプレーに挑戦して、成功体験を得ながら自信と挑戦する意欲を育てます。	・跳び箱や鉄棒など、学校体育につながる運動を取り入れ、体幹強化や柔軟性の向上、ボディイメージを育み、適切な身体の使い方を意識できるよう支援します。繰り返し取り組むことで運動の基本動作を定着させ、活動の幅を広げられるよう支援します。 ・基本的な運動の他にフットサルや野球などを取り入れ、小集団で楽しめるスポーツに取り組みます。段階的に挑戦できるプログラムを設定し、不安のある活動にも自然と自信を持って取り組めるようサポートします。
	感覚	○身体の移動能力の向上 ○保有する感覚の活用 ○感覚の特性への対応	感覚調整 身体のリラクゼーション	感覚を刺激する活動で、感覚調整能力（感覚統合）の発達を促し、心地よく適切に動かせる力を育てます。前庭覚や固有覚にアプローチした運動では、バランス感覚や体の使い方を学び、段階的に複雑な動きにも挑戦します。	・マット運動やバランス運動に繰り返し取り組み、視・聴・触覚の手がかり（動作の記憶・再現の促進）で、身体の動きを意識的に調整できるよう目指します。本人の感覚特性に応じた活動や刺激レベルを見極め、安心して取り組めるよう支援します。 ・粗大運動だけでなく微細運動も取り入れ、手指の巧緻性や全身のコントロールを向上します。お手玉キャッチや的当てなどで、姿勢保持や道具の操作性を高めていき、生体動作のスムーズさにつながるよう支援します。
言語 コミュニケーション	言語	○コミュニケーションの基礎的能力の向上 ○言語の受容と表出	効果的な会話の練習 意見表現力の向上	運動や遊びの中で、言葉を使った自己表現スキルを向上します。分かりやすい言葉のやりとりで、自分の気持ちや考えを適切に伝える・伝わる機会を増やし、他者と会話する楽しさを育みながら自己肯定感を高めます。	・落ち着いているときや楽しいときだけではなく、嫌な場面でも自分の気持ちを言葉で表現する機会を増やしていきます。代弁や選択肢を提示して、本人が選んだ言葉を復唱してもらうことで、気持ちを伝えるレパートリーを広げていきます。 ・自分の気持ちや考え、要求などを言葉で伝える経験を積み重ねます。本人の気持ちに寄り添いながら、適切な言葉の選択や発言のタイミングの練習をし、適切な表出方法が学べるようサポートします。
	コミュニケーション	○コミュニケーション手段の選択と活用 ○状況に応じたコミュニケーション等	友人関係の構築 グループ内コミュニケーション	伝える力と話を聴く力を育みます。言葉、表情、ジェスチャーで自己表現力を高めると共に、相手の気持ちを考えながら言葉や行動でやり取りします。コミュニケーション力や社会的スキルが身につくよう、集団内で協力しながら自己表現と他者との関わりを深めます。	・役割やルールのある遊びを通して、「相手の話を聞く・自分の気持ちを伝える」ことを、本人のペースに合わせて練習していきます。ゲームを楽しみながらルールの理解を深め、勝敗の受け入れも促していきます。 ・会話が増える活動を多く取り入れ、他児と相談したり提案する場を提供します。困ったときや要求場面に限らず、互いに相互理解が深まる体験になるよう仲介し、良好なコミュニケーションの経験を重ねていきます。

5領域		ガイドライン	要約	定義	具体例
人間関係 社会性	人間関係	○情緒の安定 ○他者との関わり（人間関係）の形成 ○遊びを通じた	信頼できる他者との関わりと安定化 自己理解と仲間作り	仲間と助け合ったり共感することを楽しめる機会を設け、他者の気持ちを理解しながら協力して問題解決をする力を育みます。信頼できる仲間と安心して関われることで、人間関係を深めていきます。	・小集団ゲームやフットサルなどのチーム戦を通して、仲間意識や共感を育む機会を提供します。自分の役割を理解し、安心して取り組む経験を重ねることで、円滑な人間関係の構築につなげていきます。 ・チーム戦で勝敗受容ができずに癇癪がでて、落ち着いて対話できるよう支援します。事前に説明をして心の準備をしたり、必要に応じて気持ちの代弁をします。活動後にメンバー同士で気持ちを話し合う機会も設けて自己理解を深める支援をします。
	社会性	社会性の発達 ○自己の理解と行動の調整 ○仲間づくりと集団への参加	友達関係の構築支援 集団行動やマナー 社会参加・集団参加 社会ルールの学習	適切な振る舞いを身につけ、集団内での自分の役割を理解し実行することを支援します。他者と関わることで協調性を高め、自尊心や自己肯定感を育みます。集団内で互いを尊重し、良好な関係を築く姿勢を支援します。	・グループ活動や役割分担が発生する機会を積極的に設け、対人交流が増えたり社会性が向上するよう支援します。相手の意見を尊重しながら自分の意見を伝える経験を通して、自尊心が育まれるような活動を提供します。 ・周囲の人や集団活動の状況に気づけるよう必要に応じて伝えていき、自ら気づき受け入れる姿勢を育みます。指導員が事前に説明したり代弁することで、集団活動に参加がしやすい環境を整え支援します。